

総選挙で画期的な躍進

— 日本共産党21議席、議案提出権を獲得 —

14日投票の総選挙で、日本共産党は比例代表で606万票（得票率11.37%）を獲得し、8議席から21議席へ大躍進。現制度始まって以来2番目に多い議席数で、衆議院でも議案提出権を得ることができました。今後は党首討論への参加など発言機会・時間が大幅に増え、「1人で10人力の破壊力がある」日本共産党国会議員団の活動は飛躍的に前進します。また沖縄の4つの小選挙区では、新基地建設に反対する「オール沖縄」勢力が全勝し、県民を裏切った自民党に対し知事選に続き明確な民意が示されました。

貴重な募金や熱心なご支援、ご協力をいただいた皆さまに心から感謝を申し上げます。

比例東海ブロックで14年ぶり2議席

比例東海ブロックでは14年ぶりに、もとむら伸子、しまづ幸広の複数議席を得ることができました。

江南市でも、比例4751票・得票率11.38%（前回衆院選から1562票増）、小選挙区4866票・得票率11.78%（前回から1359票増）と前進。愛知10区全体でも板倉正文候補は得票率10%を上回りました。

自民・公明が3分の2を占める圧勝との報道がありますが、大政党内に有利な小選挙区制が作りだした虚構の多数であることは明白。国



しまづ幸広新衆院議員（左）、もとむら伸子新衆院議員（右）真ん中は勇退した、佐々木憲昭前議員

民の間では消費税増税反対、集团的自衛権行使反対、原発再稼働やめよ、沖縄新基地建設反対の声が、多数派であることに変わりありません。アベノミクスも早晚、破綻が誰の目にも明らかになるでしょう。日本共産党は大きくしていただいた国会議員団の力で、公約実現に全力をあげます。国民のみなさんとの共同をさらに広げて安倍政権を包囲し、国民の声が活きる新しい政治を切り拓くためにがんばります。

続くいっせい地方選でも躍進を

次は来年1月の県知事選、4月の市議会議員選挙です。日本共産党はひきつづき地方選挙でも躍進をはたし、安倍暴走政治にストップをかけるために奮闘します。

12月議会
閉会

子ども・精神障がい者医療費、助成の対象を拡充 学童保育を条例化、調整区域の開発の規制緩和も

江南市議会12月定例会は16日に閉会しました。突然の総選挙、しかも市議2人が小選挙区と比例代表にそれぞれ出馬する前代未聞の事態の中で開かれた12月議会でした。

日本共産党議員団は提案された議案に対し、積極的に疑問点等を質疑し24議案すべてに賛成。一般質問でも、寄せられた市民アンケートの声を市政に届けるために奮闘しました。

《一般質問で日本共産党議員団が取り上げた項目》

かけのまち子議員

- (1) 市の財政健全度について (2) 便利なバスの実現を
- (3) 平和行政の推進を (4) 公共施設にもっと洋式トイレを

東よしき議員

- (1) 布袋駅付近鉄道高架事業 (2) 市街地の公園などの整備
- (3) 消費税増税は社会保障の「充実」になっているか
- (4) 緊急通報システムについて

森ケイ子議員

- (1) 防災行政無線と障がい者への情報伝達について
- (2) 住宅地の浸水対策 (3) スポーツ振興計画について
- (4) 住宅困窮者に県営住宅への入居の促進を
- (5) 市長の退職金について

*庁舎耐震補強工事に伴う議場改修が終了。傍聴席から議員席が見渡せるようになり、車椅子の方も傍聴席に入れるようになりました。

条例改正・制定では、① 子どもの医療費助成の対象を中学卒業まで1割自己負担を拡大し、現物給付（病院窓口で1割負担）に改善 ② 精神障がい者の一般医療費を全額助成に拡大し、現物給付に改善 ③ 学童保育の設備、運営の基準を条例化 ④ 市街化調整区域の開発規制を緩和する条例などを可決しました。

日本共産党議員団は、①の子どもの医療費助成の拡充では全額助成するべきとの立場でがんばりましたが、前進面を評価し賛成しました。



④の規制緩和条例にもとづいて農地等を宅地化する場合、従来より雨水流出抑制の強化を義務づけることが審議の中で明らかになりました。

新図書館建設の財源確保のため、基金積立を

— 議長名で市長に要望書提出 —

図書館問題特別委員会では、現図書館の運用と新図書館の建設問題を協議してきましたが、新図書館建設は必要不可欠との方向性を確認。その財源確保のため、①今年度に取り崩した図書館建設基金の全額を戻す予算措置をすること ②今後、毎年少なからず建設基金への積立を再開すること、の2点の要望書を11月11日、議長名で市長に提出しました。